

# 【小施策評価(平成30年度実績評価)】

## 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	1	人がいきいきと暮らすまちづくり	小施策 主管課等	くらしの安全課	
施策	8	安全・安心な暮らしの確保	評価 責任者	吉田 一彦	内線 2680
小施策	8-5	防犯対策の推進	評価 シート 作成者	高橋 智巳	内線 2681

## 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
市の刑法犯認知件数は、13年以降、減少傾向が続いているが、子どもへの声かけなどの不審者情報が後を絶たないほか、無施錠被害の割合が高い状況が続いていることから、犯罪の被害に遭わないよう、安全で住みよいまちづくりを進めるため、「地域の安全は地域で守る」という観点から、地域ぐるみでの取組が推進されるよう支援していく必要がある。		市民が犯罪の被害を受けることがなく安全に安心して暮らせるように、防犯協会や警察、町内会など、関係機関が一体となった防犯活動を推進する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民		犯罪の被害者とならないようにする。

## 小施策の成果指標の達成状況・評価(平成30年度実績)

実績値の推移				実績の評価		今後の方向性(令和元年度以降)
指標① 人口1万人当たりの刑法犯発生件数		単 位	目指す方向	成 果 点	成果の要因分析	
当初値 (H25)	68.4	件	→			評価を踏まえた取組の方向性 ★…R1年度着手済または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討  ★ これまで実施してきた、パトロール用品の支給は、刑法犯認知件数の減少につながっており、顔の見える取組が地域づくりにも効果を上げているため、防犯パトロール用品支給を継続する。  ★ 犯罪の抑止のため、地域防犯カメラを設置する町内会等への支援を継続する。
R1目標値	68.4			・刑法犯認知件数は減少傾向にある。	成果の要因分析 ・防犯ボランティア団体などを対象とした、防犯パトロール用品の支給や防犯研修会の実施など、自主防犯活動を継続的に支援したことにより、地域における自主的な防犯活動が根付いた。 ・特殊詐欺に遭わないための広報啓発活動を広報車により実施した。 ・明るく住みよい盛岡市の実現のため、防犯活動を推進している盛岡市防犯協会に対し事業支援を行った。	
R6目標値	68.4			・子どもに対する声かけ事案が増加傾向にある。	問題の要因分析 ・子ども見守り活動への支援の強化が必要である。 ・防犯パトロールなど人による防犯活動には時間の制限があるため、防犯カメラによる24時間体制の防犯が必要である。 ・防犯パトロールが十分に行われない場所について、防犯カメラにより補完する必要がある。 ・町内会等からは犯罪抑止のための防犯カメラの設置要望が出ている。	

